

## 令和7年度福岡市歯科口腔保健推進協議会 議事録

1 開催日時 令和8年3月27日(金) 14:00~15:00

2 開催方法 オンライン

3 会議次第

- 1 開会
- 2 挨拶(事務局)
- 3 議事1「福岡市民の歯科口腔保健の現状と課題について」
  - (1)福岡市歯科口腔保健推進の進捗状況について
  - (2)福岡市歯科口腔保健関連事業の実施状況について
- 4 議事2「オーラルケア28(にいほち)プロジェクトについて」
  - (1)プロジェクト実施状況について
  - (2)評価報告書について
- 5 挨拶(事務局)
- 6 閉会

4 出席委員 14名  
欠席委員 6名

5 報道機関取材者及び傍聴者  
報道機関:無 傍聴者:無

6 議事概要(次頁以降のとおり)

事務局	<p>■議事1「福岡市民の歯科口腔保健の現状と課題について」</p> <p>(1)福岡市歯科口腔保健推進の進捗状況について、(2)福岡市歯科口腔保健関連事業の実施状況について、それぞれ資料1、2に沿って説明。</p>
会長	<p>成人や高齢者の指標については、全国的にも安定して評価できるデータがあまり多くないのが現状。地方自治体レベルでは、指標となる基礎データ自体が十分に整っていない中で、目標を設定している状況ではないかと感じている。目標を立てることに加え、その目標を評価できる基礎データをどのように構築していくかが重要。</p> <p>一方で、乳幼児や学齢期のう蝕に関するデータについては、日本は世界的にも優れたデータを持っている。</p> <p>3歳児のう蝕のない者の割合については、全国平均並みの水準ではあるが、福岡市は都市部であり九州大学や福岡歯科大学といった教育・研究環境にも恵まれていることを考えると、平均的な数値でよいのかという点では、少し物足りなさを感じる。</p> <p>また、12歳児のう蝕のない者の割合は、全国平均よりも低い数値となっている。オーラルケア28の考え方にも通じるが、幼少期からどのように口腔保健行動を定着させるかが、高齢期の健康につながるため、その点も後半の議論で考えていきたい。</p>
事務局	<p>■議事2「オーラルケア28(にいほち)プロジェクトについて」</p> <p>(1)プロジェクト実施状況について、(2)評価報告書について、それぞれ資料3、4に沿って説明。</p>
会長	<p>厚生労働省のロジックモデルにおいては、8020運動のように「80歳で20本以上の歯を保つ」という最終目標(アウトカム)が設定されているが、これをそのままアクションプランとして位置付けた場合、具体的な取組につながりにくいという課題がある。</p> <p>本来は、最終目標に至るまでのプロセスがあり、それに基づく取組の結果としてアウトプットが生じ、その結果が最終的にアウトカムとして評価されるべきものである。アウトプットのみを評価している、目標達成に向けた取組が十分に進まないという反省も踏まえ、現在は段階的な整理が進められているところである。</p> <p>また、現状では歯科健診の受診率向上がアウトカムとして扱われているが、本来は受診率の向上はアウトプットとして整理されるべきであり、最終的には歯周病やう蝕の減少といった健康状態の改善がアウトカムとなるべきである。</p> <p>したがって、受診率が向上しても、歯周病やう蝕の減少につながっていない場合には、施策の有効性について再検証が必要である。保健行政においては、指標の改善そのものだけでなく、それが真に健康状態の改善につながっているかを評価していく視点が重要である。</p>
委員	<p>高齢者施設向けの口腔ケア実践動画について、高齢者施設ではインプラントや入れ歯をしている方も多いが、歯科の往診や定期的な歯科健診が入っていない施設もまだ多く、今後も施設入居者が増えていく中で専門医によるチェックも大事だと考えている。</p> <p>動画の視聴回数が減ってきているようだが、現場では、インプラントを誤って飲み込んでしまいそうな危ない場面も多く、施設職員向けに医療安全やリスク面の観点からも理解を深める取組みがさらに必要ではないか。</p>

委員	<p>福岡市は、歯科の予防施策として多くの事業が実施されており、全国的にみても先行的な取組みとして注目されていると感じる。</p> <p>今回の評価の中で、40歳における歯周病を有する者の割合が悪化している点が気になった。30歳代くらいから、ターゲットを絞って、歯周病に対する意識づけや重点的なアプローチができれば、少し状況は変わってくるのではないかな。</p> <p>全体としては、良い結果が出ている事業が多いため、ぜひこのまま継続して取り組んでいただきたい。</p>
委員	<p>子どもたちに対する歯科保健指導は非常に重要だが、歯科医院へ連れていく保護者に向けてのアプローチも重要だと考える。PTAなど、保護者が集まる場でこうした情報共有や啓発についても、今後検討していただきたい。</p>
会長	<p>これまでにPTAに対する取組みの例はあるか。</p>
事務局	<p>学校における取組みについては、子どもたちへの歯磨き指導や一般の市民を対象とした講演会を実施している。現在は、PTAを対象とした取組みは行っていない。</p>
会長	<p>子どもの歯磨きや口の中に関心を持つことで、保護者自身の生活習慣や歯科受診行動も変わってくることもあるため、家庭単位での口腔保健の向上につながると思う。</p> <p>そのような家族単位でのアプローチができれば、先進的な取組みになるのではないかな。</p>
委員	<p>障がいのある方の口腔ケアについては、一般的な方法がそのまま当てはまらないケースが多いと感じている。</p> <p>感覚過敏や重度の障がいなどにより、口を開けてもらうこと自体が難しい場合がある。一方で、支援者との関係性が築かれてくると、徐々に口を開けてくれるようになることもあり、口腔ケアの受け入れ状態は関係性の深まりを示す一つの指標にもなっている。</p> <p>カウントをしながら磨く、視覚的に分かりやすく伝えるなど、合理的配慮を行うことで、少しずつ受け入れてもらえるようになるケースもある。</p> <p>障がい分野特有の工夫や経験も、こうした場で共有できるとよいのではないかな。</p>
事務局	<p>参考として、障がい者施設向けの施策では、職員向けの講習会を年に一度実施している。また、未就学の障がい児を対象とした無料の歯科健診を実施している。</p>
事務局	<p>本日のご意見を踏まえ、令和9年度以降の次期プロジェクトのアクションプラン策定を進めていく。まずは、専門部会で検討を進めたいうえで、協議会にて報告予定。</p>